

「」は記号と考えられるが意味は不明。「八木□□□」の三字目は「濱」とも考えられる。最後の文字は「内」、「助」、「物」、「納」などの文字のいずれかではないかと考えられる。この面は「八木□□□」という地名または人名が書かれていた可能性がある。

「百廿五」の下は「文」と考えられる。

(2) ・◇ 九十□□□^{〔入力〕}

・◇ □□□□

113×30×6 032

「九十」の下は、「四」か「五」の数字でその次は「文」とも考えられる。もう片面については文字が薄く判読できない。

両面共、切り込みの下に「◇」があるがこの意味も不明である。

(山崎清和)

木簡研究 第五号

巻頭言——木簡史の研究について——

関 晃

一九八二年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 白毫寺遺跡 藤原宮跡 山田寺跡 阿部六ノ坪遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長岡京跡(4) 仁和寺南院跡 大坂城跡 梶子遺跡 道場田遺跡 野畑遺跡 穴太遺跡 下野国府跡 下野国府跡寄居地区遺跡 長原東遺跡 多賀城跡 弘田柵跡 日野川朝宮橋下流 桜町遺跡 出合遺跡 辻井遺跡 助三畑遺跡 肩脊堀の内遺跡 草戸千軒町遺跡 田村遺跡 高畑廃寺 藤田遺跡 一九七七年以前出土の木簡(五)

藤原宮跡

字訓史資料としての平城宮木簡

——古事記の用字法との比較を方法として——

平城宮出土の衛士関係木簡について

小林 芳規

木簡とコンピュータ

鬼頭 清明

書評・『草戸千軒——木簡——』

田中 琢

彙報

水藤 真

頒価 三五〇〇円 一四〇〇円